

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津商業高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月22日(水) 13:30～15:30
- 3 開催場所 中津商業高等学校会議室
- 4 参加者

会 長 副 会 長 委 員  オブザーバー   学 校 側	粥川 茂和	(同窓会会長、市議会議員)
	成瀬 博明	(同窓会副会長、中津川商工会議所専務理事)
	児玉 光弘	(地域住民代表 学識経験者)
	李 瑾	(中京学院大学 准教授)
	大瀧 國嘉	(中津川市立第一中学校長)
	市川 順子	(中津川市定住推進部市民協働課主査)
	石黒かおり	(中津川市幼児教育課主査)
	久木 利道	(トーキン工業㈱ 代表取締役)
	加藤 孝盛	(PTA会長)
	石黒 梨香	(PTA役員)
	原 祐一	(前校長)
	森 益基	(岐阜県議会議員)
	森岡 孝文	(校 長)
	丸山 裕	(教 頭)
	松村 勇一	(事務長)
	兼松 美穂	(教務主任)
	伊藤 則生	(生徒指導部長)
坂本 美和	(進路指導部長)	
新井 秀行	(保健安全部長)	
丹羽 浩徳	(渉外部長)	
若尾 昌彦	(商業教育部長)	
勝野日菜子	(記録)	
- 5 会議の概要(協議事項)
  - (1) 学校の現状について
    - ① 学校運営協議会設置について
    - ② 本校の概要紹介について
    - ③ 令和4年度 「ふるさと教育」 関連事業について
      - 地域産業の担い手育成総合戦略事業
        - ・Yahoo! Japan とサラダコスモと連携しweb販売の学習
        - ・ソフトバンクと提携して「AIチャレンジ」の学習
      - 「スマート専門高校」事業
        - ・デジタル化対応産業教育装置の稼働・・・中津川市観光PR動画作成事業
      - 地域連携による活力ある高校づくり推進事業
        - ・地元特産品を使った商品開発、飛騨・美濃伝統野菜「菊芋」の栽培と商品開発、ふるさと納税返礼品開発、地元中学生を対象に簿記の出前講座、地元企業の商品Webサイト作成等、地域と結びつく事業に取り組んでいる

- (2) 学校運営の方針と重点について
  - ① 令和4年度教育指導の重点及び学校経営計画について
    - ・学校教育目標、スクール・ポリシーの確認
  - ② 生徒指導部の校則（生徒心得）について
  - ③ 学校組織編制について
  - ④ 教育課程について
  - ⑤ 年間行事計画について
- (3) その他
  - ① 新型コロナウイルス感染症に関する本校の取組について
  - ② 部活動について

## 6 本校への意見

- 意見1：様々な考え方の生徒がいるため、それぞれへの対応や新型コロナウイルス関係の対応、働き方改革などの点で今学校は大変なのではないか。生徒のプレゼンテーションを見て、新型コロナウイルスの状況下で、学校が企業と連携し学んでいく姿勢で取り組んでいることが伝わり、生徒が育っていると感じた。
- 意見2：活気があるプレゼンテーションに感心した。生徒のICT機器の応用力がかなり高まっているようだ。インスタグラムでも情報を発信するなど、SNS活用の先端を行く学校になったことを嬉しく思う。一方でスマートフォンの長時間使用による睡眠障害や脳の疲労などが社会で健康問題になっているため、スマートフォンの適切な使用についての指導も行ってほしい。
- 意見3：商業高校ならではの取組である。ふるさとの魅力を活かした事業ということで、商品開発や販売目標を立て、販売することは本当に素晴らしい。ぜひこうした取組を中学校でもできないかと思いながら参観した。コロナ禍でインターンシップなどの職業体験が中止になっているが、早く復活するとよい。
- 意見4：ふるさと教育に関して、中津川市では大学の学生や高校の生徒による発表会などを企画しているので、本校生徒も参加して交流をしていくと幅が広がるのではないかと。  
⇒本校は就職希望の生徒も多く、進学して地元に戻ってくる者もいる。  
本校に進学することが市の定住推進にもなるので、応援してほしい
- 意見5：新商品を生むのはなかなか難しく、四苦八苦している。その点地元企業とコラボレーションによって新商品が生まれやすくなる。教員を中心に本校のOBにも力を借りて新商品を作ってほしい。入学志願者数が定員を割り込んでいることについて、少しでも生徒が入学してくれるように本校の魅力を存分に伝えてほしい。  
生徒育成の面では、本校出身の教員を何とか増やしてほしい。
- 意見6：生徒のプレゼンテーションを見て、人前で話すことや人にPRすることを学生のうちから何度も経験させるのは、社会人になってからも大事な力を育む取り組みである。  
製造業やサービス業などの商売の仕組みが分かれば、どんな職業に就いても自分に与えられた仕事が単なる作業ではなく、商品開発の一部だと自覚を持つことができる。そのためにも今回の取り組みは必要だと感じた。タブレット端末等を、さらに発展した活用ができるということを計画的に推進し、他の電子機器の活用も活発にしてほしい。
- 意見7：中学校で不登校だった生徒が本校に入学した際の実態はどうであるか。  
⇒本校は基本的に不登校の生徒は少ないが、悩んでいる生徒は様々いる。学校としてしっかりとサポートしていく。
- 意見8：東濃地区では、昨年度通信制の高校を志望している中学生が増えている。  
不登校の生徒が通信制高等学校への進学を選択している状況である。
- 意見9：生徒心得の「男女の交際は高校生であることを自覚する。」というのは何を自覚するのか。  
⇒男女交際を否定しているわけではない。本校は生徒が自ら考えていく力を大切にしている。  
ビジネスマナーを重要視し社会的に信頼を得るために、自分の行動が本校の生徒としてふさわしいか考え行動することが重要だと考えている。

意見 10 : LGBTQ について、セーラー型制服のスカートをスラックスに変えるということがなかなか難しいと察するが、それに関してどのように進めているか。

⇒生徒会執行部との意見交換を通して、今後議論を進めていく予定である。生徒の意見では、女子用のスラックスが欲しいという意見があった。

意見 11 : LGBT に Q が加わり、生徒心得の交友の部分が、明確に「男女」と記入してあることで生徒たちが相談しにくく、傷つくことがあるのではないか。生徒意見の反映や LGBTQ に関して生徒の相談窓口のようなものはあるのか。

⇒ジェンダーに関して悩んでいるようなことがあれば、教育相談で対応したい。

意見 12 : LGBTQ の問題については、親としてもなかなか理解できていない面もある。まずは子供たちがどういう問題か認識することが大切である。悩みを抱える子が、よりよい学校生活を送れるようにしてほしい。

意見 13 : マスクを着用しなくてもいい場面について、本校はどのように理解しているか。

⇒県のガイドラインに沿って対応している。また、マスクを外して会話をすると濃厚接触者となるリスクもあるため、会話をする際はマスクを着用するというルールで取り組んでいる。従来から大きく変更はしていないが、体育等では熱中症対策として、マスクを外し、距離をとって活動することもしている。

意見 14 : 制服の移行期間については、昨今の気候変動などの影響にもよるので、幅を持たせた方がよいのではないか。

⇒制服の移行期間は、例年は5月からとしていたが、気温が高くなった関係で4月からに変更した。今後は気温などの状況によって移行期間を調整していくつもりである。

意見 15 : 今年度の新入生が定員を割り込んだことについて、その数字がかなり厳しいものであった。いかに学校に魅力を持たせて入学希望者を集めるか。今日の少子化という社会の状況の中で、希望をもって本校に入学する生徒を増やしてほしい。

ふるさと学習に取り組む、本校において一番の魅力は、本校を卒業したら地元就職ができること。仮に大学に進学したとしても、地元に戻って住んでもらうことが、中津川市にとっても、岐阜県にとっても重要なポイントである。また、生徒が希望をもって本校に入学し、夢を実現できるような学校であってほしい。

## 7 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・開発商品の発表を見てもらい、生徒の活動の様子やICT機器を活用する能力の向上を実感できた。今後は、商業高校の枠を超えたより一層充実したDX事業等にも力を入れていきたい。
- ・今後の課題として、働き方改革により、中学校の部活動が変化していることが挙げられる。本校にとって部活動は学校生活の充実と切りせない重要な位置づけとなっているが、働き方改革と関連を持たせて重要な課題として取り組みたい。
- ・本校の大事な役割は、地元の企業を支え中津川市を発展させるために、地元の魅力を探究し生徒に伝えていくことである。今後も地元へ就職し、進学しても地元に戻ってくる生徒を育てたい。
- ・LGBTQの問題は、学校だけでなく、家族と生徒がどういう問題か認識することが大切と考えられる。こうした悩みを抱える生徒に寄り添い、より良い学校生活を送れるように生徒の意見を反映していくように取り組みたい。